

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番号 ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしゃ
懐かしきせみの鳴き声聴きながら	夏祭りコロナで無くなり悲しくて	天の川星を通りて大波や	海へ行きゲームポテチにコーラ飲む	桜散るその刹那こそが切なけれ	来年度新たな道へと進んでく	桜舞い微かに香り匂わせて	春の風鳥のさえずり花の白い	新入生きたいと不安の入学式	新しい門出を祝い咲き誇る		そめいよしのにげんきをもらう	ソメイヨシノに元気をもらう	花
なつかしきせみのなきごえききながら	なつまつりころなでなくなりかなしくて	あまのがわほしをとおりておおなみや	うみへいきげーむぼてちにコーラのむ	さくらちるそのせつなこそがせつなけれ	らいねんどあらたなみちへとすすんでく	さくらまいかすかにかおりにおわせて	はるのかぜとりのさえずりはなのにおい	しんにゆうせいきたいとふあんのにゆうがくしき	あたらしいかどでをいわいさきほこる		しぜんのしんぴやまどのはる	まどをのぞくとさくらまいちる	ラーメン丸
こどものときの蜜香り	一人でやろう線香花火	天の原から海へ流るる	休み後半宿題祭り	この夜桜も見納めの時	日々の感謝を忘れず歩む	みんなのことを笑顔にさせる	自然の神秘大和の春	窓をのぞくと桜まいちる	ソメイヨシノに元気をもらう		みんなのことをえがおにさせる	みんなのことを笑顔にさせる	羽珠
ひよらー	かぐや先輩	こと葉	ゆめめ	ウク	ちささこ	ちささこ	ちさレこ	ちさレこ	ちさレこ		このよざくらもみおさめのとき	ひびのかんしゃをわすれずあゆむ	ちささこ